

FREE

ご自由にお持ちください。

No.839
2023 August

8

岐阜県の森林・林業

も り
森林のたより



News of the forest



令和5年度第1回「ぎふ森のある暮らし推進協議会」
総会が開催されました



●詳細は3ページをご覧ください

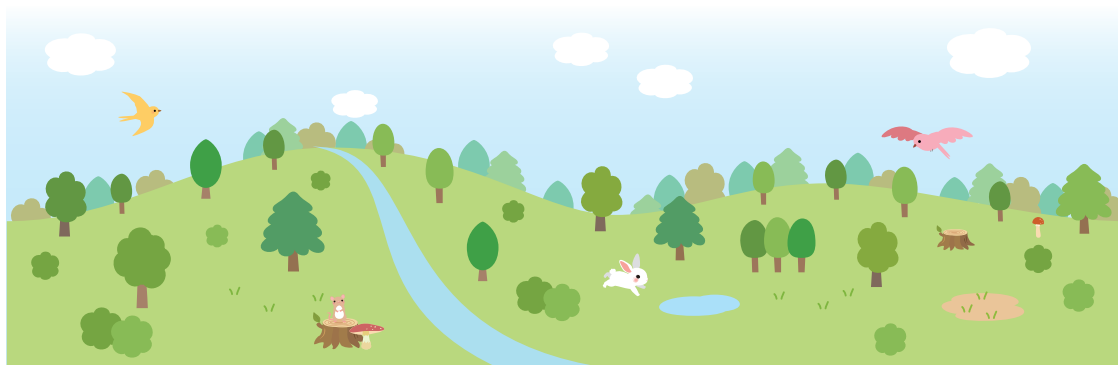


編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

<http://www.g-forestry.or.jp> (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
8月20日(日)	森林文化アカデミー オープンキャンパス	入学を検討している人を対象にオープンキャンパスを実施。 ●時間：10:00~16:00 ●参加料：無料 ●事前申込：必要(募集定員 森と木のエンジニア科48人、森と木のクリエーター科 20人) https://www.forest.ac.jp/admissions/opencampus/ から申し込んでください。	森林文化アカデミー 0575-35-2525
9月2日(土)	狩猟免許試験 (網猟、わな猟)	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●時間：9:30~17:00 ●申込：7/27~8/10 ※事前に申請書類等の提出が必要です。 詳しくは右記にお問い合わせください。	岐阜大学全学共通教育講義棟 各地域を所管する県事務所等、 または環境生活政策課 TEL:058-272-8231
9月29日(金) 締め切り	令和6年用国土緑化運動・ 育樹運動標語の募集	令和6年用の国土緑化運動・育樹運動のポスター等で使用する標語を募集しています。	公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 058-273-7577
10月5日(木)	狩猟免許試験 (第一種銃猟)	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●時間：9:30~17:00 ●申込：8/31~9/14 ※事前に申請書類等の提出が必要です。 詳しくは右記にお問い合わせください。	揖斐総合庁舎大会議室 各地域を所管する県事務所等、 または環境生活政策課 TEL:058-272-8231



目次	Contents
イベントカレンダー(一般向け).....	2
「ぎふ森のある暮らし推進協議会 第1回総会が開催されました」.....	3
「白山白川郷ホワイトロード」イベント情報.....	3
山の日フェスタぎふ2023を開催.....	4
第11回緑豊かな清流の国ぎふづくり県民フォーラムを開催.....	4
100年の森林づくり計画(森林配置計画)について.....	5
保安林における制限/立木の伐採の制限.....	5
治山・林道技術成果.....	6
岐阜県木質バイオマス利用アドバイザーの認定について.....	7
山の歳時記216 オミナエシ.....	8
山のおじまむし(385) —土になった、イタチー.....	9
シリーズ「森林・環境税で緑豊かな清流の国ぎふづくり」(3).....	10
森林と人を活かす知恵(12) 良いものを目指すことで森林の好循環を.....	11
ぎふ木遊館通信.....	12
morinosプログラム紹介!!.....	13
普及コーナー.....	14
揖斐管内における鳥獣害防止施設の設置後の状況について.....	14
スマート林業通信(37).....	15
木の香るぎふの施設(125) 岐阜県立岐阜農林高等学校図書室.....	16
研究コーナー「母樹に優しいクローン増殖」.....	17
国有林の現場から(82).....	18
国有林ゴミゼロ運動/今年度も実施しました.....	18
林業者向けお知らせ.....	19
市況.....	20



表紙●詳細は3ページをご覧ください。

「ぎふ森のある暮らし推進協議会」
第1回総会が開催されました

令和5年6月8日(木)に、岐阜県庁舎ミナモホールにて、「ぎふ森のある暮らし推進協議会」(以下、「協議会」)の令和5年度第1回総会が開催されました。

総会の概要

【議事】

「役員の選任」「令和5年度事業計画」「令和5年度収支予算」など4つの議案について説明があり、いずれも事務局案で承認されました。

役員については、会長にトヨタ白川郷自然学校の山田俊行学校長が、副会長にNPO法人森のなりわい研究所の伊藤栄一代表理事がそれぞれ選任されました。また、理事には(株)山共の田口房国氏、(株)長瀬土建の長瀬雅彦氏、岐阜県キャンプ場連絡協議会の洞口健児氏、岐阜県の久松一男林政部長が選任されました。

【セミナー】

総会終了後には、ツリークライミング®ジャパン代表のジョン・ギャスライト氏によるセミナー「森は大きな貯金箱 森林サービ

ス産業への期待」が行われ、海外での森林サービス産業のあり方や、日本の森林サービス産業の今後の展望などについて講演いただきました。

【交流会】

セミナー終了後には、県庁舎20階会議室にて、協議会会員の交流会が行われました。

伊藤副会長がファシリテーターを務められ事業内容や将来のビジョンを参加者同士が共有し合うなど、実りある時間を過ごしました。



●詳しい内容を知りたい方は

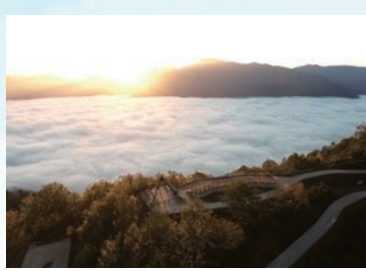
TEL 058-272-8472

ぎふ森のある暮らし推進協議会事務局
(岐阜県森林活用推進課森林サービス
産業支援係)まで

「白山白川郷ホワイトロード」イベント情報

山岳有料道路「白山白川郷ホワイトロード」の8月以降のイベントをご紹介します。限られた期間しか見ることのできない大自然がここにあります。ぜひ、お越しください。

イベントカレンダー



月	日	行事名	内容
8	中旬	ナイトドライブ・星空観察	満天の星とホワイトロードの夜間ドライブ(限定車) ※参加料別途必要
	~28(月)	風鈴の奏で	多治見の陶器の風鈴が涼しい音色で皆様をおもてなし
	~31(木)	SNS写真コンクール締切	テーマ“走快・ホワイトロードの夏” ※優秀作品には「ホワイトロード利用優待券」が贈られます。
9	23(土・祝) ~ 10/22(日)	秋のモーニングタイム	通常より1時間早く開門するため、ゆっくりと紅葉を楽しめます。雲海や霧虹、滝雲などの幻想的な風景が見られるかも。

お問い合わせ先

白山林道岐阜管理事務所 TEL/FAX 05769-6-1664 <https://hs-whiteroad.jp/> 【森林保全課 水源林保全係】

「山の日フェスタぎふ2023」を開催

県では、8月の「ぎふの山に親しむ月間」に合わせて、ぎふの山や自然を知り、親しむ「山の日フェスタぎふ2023」を開催します。

期 間	令和5年8月5日(土)～11日(金・祝)
会 場	カラフルタウン岐阜、ぎふ木遊館、森林総合教育センター(morinos)
主 催	岐阜県、(公社)岐阜県山林協会、(公社)岐阜県緑化推進委員会、岐阜県森林組合連合会、岐阜県木材協同組合連合会
共 催	恵みの森づくりコンソーシアム

開催内容 (予定)

●ぎふ木育WEEK with 恵みの森づくりコンソーシアム

(8月5日(土)、6日(日) 会場:カラフルタウン岐阜 カラフルパーク)

- 森林・林業関係団体及び恵みの森づくりコンソーシアムによるワークショップ等のブース出展
- カラフルタウン岐阜内でクイズラリーを開催します。クイズに解答した両日先着200名様は「木ガチャ」を回すことができます。何が出るかはお楽しみ!
- 移動型ぎふ木遊館(ぎふの木のおもちゃ体験)の開催

●スタンプラリー(8月5日(土)～9月30日(土))

- ぎふ木育WEEKイベント・ぎふ木遊館・morinosの3施設のうち、2施設でスタンプを押して応募していただいた先着300名様に対し、木のおもちゃセットをプレゼント(郵送)します。
- スタンプラリー台紙は、各会場で配布します。
- ぎふ木遊館は、予約制(有料)です。右記二次元コードからご予約ください。

●ぎふ木遊館サマーフェスタ(8月5日(土) 会場:ぎふ木遊館)

●morinos土日限定ミニプログラム(8月5日(土)、6日(日) 会場: morinos)



ぎふ木遊館



morinos



お問い合わせ: 森林活用推進課 森林活用係 TEL:058-272-8472 FAX:058-278-2702 E-Mail: c11513@pref.gifu.lg.jp

第11回

緑豊かな清流の国ぎふづくり県民フォーラムを開催

県では平成24年度から始まった「清流の国ぎふ森林・環境税」を広く県民の皆様を知っていただくため、毎年、県民フォーラムを開催しています。今年度は、今年1月に開庁した新県庁舎内で開催いたします。

日時: 令和5年9月5日(火) 13時30分～16時(13時開場) 会場: 岐阜県庁1階 ミナモホール(岐阜市藪田南2-1-1) 主催: 岐阜県

【フォーラムの内容(予定)】

■感謝状贈呈式

清流の国ぎふ森林・環境基金に御寄付いただいた3者への感謝状贈呈式を行います。

表彰者: 株式会社バローホールディングス、サントリー株式会社、サントリーフーズ株式会社

■事例発表

清流の国ぎふ森林・環境基金を活用している団体について、事例発表を行います。

発表団体: 木曾川左岸遊歩道友の会
NPO法人活エネルギーアカデミー



■基調講演

森林の持つ多様な可能性をテーマに基調講演を行います。

「森をつくる暮らしをつくる」

講師: 奥田悠史氏

(株式会社やまとわ 取締役)



■その他

フォーラムの参加には事前申込が必要です。

右記二次元コードよりお申し込みください。メールまたはFAXでお申し込みされる場合は、「第11回緑豊かな清流の国ぎふづくり県民フォーラム」と検索のうえ、HPをご覧ください。



お問い合わせ: 森林活用推進課 森林活用係 TEL:058-272-8472 FAX:058-278-2702 E-Mail: c11513@pref.gifu.lg.jp

100年の森林づくり計画(森林配置計画)について

森林配置計画とは、100年先の望ましい森林の配置を見直すため、気候や地形、法規制等の諸条件を踏まえたうえで、県内すべての民有林を以下4種類の将来目標区分に設定(森林配置)するものです。

- ①:「木材生産林」(主たる目的が木材の生産である森林)
- ②:「環境保全林」(水源涵養など公益的機能の高度な発揮を期待する森林)
- ③:「観光景観林」(観光道路から眺望でき景観的価値が高い森林)
- ④:「生活保全林」(集落や生活道路に隣接し住民生活を守るための森林)

将来目標区分は、県内民有林すべてを①・②のいずれかに設定したうえで、地域の特色や実情に合わせて、③・④を①・②に重複して設定しています。なお、設定は市町村ごとに開催される地域検討会において、合意形成を経たうえで行われます。

令和3年度末には①・②の設定率が100%となり、100年先の望ましい森林の姿が明確となりました。今後は、毎年度将来目標区分が適切であるか見直すとともに、それぞれの区分にふさわしい森林づくりを促進していきます。

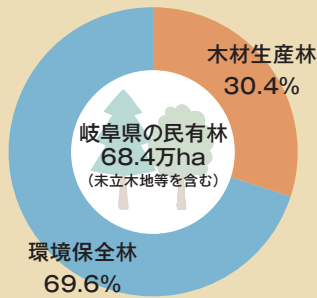


図1 木材生産林と環境保全林の設定割合 (令和4年度末時点)

表 将来目標区分別の面積(令和4年度末時点)

将来目標区分	面積
①木材生産林	207,973ha
②環境保全林	476,019ha
合計(①+②)	683,992ha
③観光景観林	53,117ha
④生活保全林	21,993ha

※③、④は①または②に重複する。

【林政課】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(4317) 森林計画係まで

保安林における制限

～立木の伐採の制限～

必ず事前の手続きが必要です

保安林とは、水源のかん養、土砂の崩壊その他の災害の防備、生活環境の保全・形成等特定の公益目的を達成するため、農林水産大臣又は都道府県知事によって指定された森林です。

保安林では、それぞれの目的に沿った森林の機能を確保するため、立木の伐採や土地の形質の変更等が規制されています。

今回は、立木の伐採の制限について説明します。

伐採の制限について

伐採方法	手続き方法	手続期間	提出先	
禁伐	伐採は禁止	—	—	
主伐	択伐	天然林は許可が必要 人工林は届出が必要	伐採を開始する日の30日前までに申請	県農林事務所
	皆伐	許可が必要	皆伐限度面積の公表の日(年4回)から30日以内に申請	県農林事務所
	間伐	届出が必要	伐採を開始する日の90日から20日前までに届出	市町村

注意事項

- (1) 主伐(択伐・皆伐)は、市町村森林整備計画で定める標準伐期齢に満たない立木は伐採できません。
- (2) 皆伐限度面積の公表の日は、2月1日、6月1日、9月1日、12月1日(土日を除く。)の年4回です。
- (3) 間伐は、樹冠疎密度(林地面積に対する立木の樹冠投影面積との比率)が80%に達していない森林では行うことはできません。

伐採をする場合は、許可又は届出など事前の手続きが必要です。また、皆伐を行う場合は、伐採現場に伐採旗の設置が必要となります。詳細は、各県農林事務所にお問い合わせください。

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(4412または4413) 森林保全課森林管理係まで

治山・林道技術成果

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究等の取り組みを行っています。令和5年2月に行われた発表会で発表された取り組み成果を紹介します。

林業専用道の新規計画に向けての取り組みについて

郡上農林事務所 下垣内 友哉

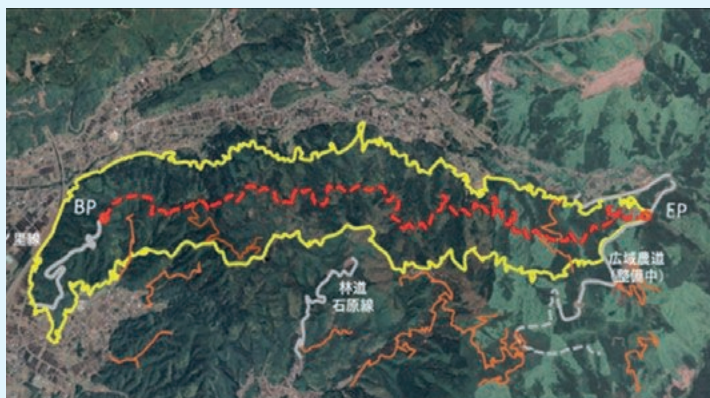
郡上市の森林・木材産業と路網整備

市域の約90%を森林が占める郡上市では、適正な森林管理による公益的機能の維持向上、豊富な森林資源を活かした持続可能な林業経営を目指しています。また、大型製材工場の稼働等により木材の需要が高まっており、安定供給に向けた生産エリアの拡大が急務で、早急な路網整備が求められています。

このため郡上農林事務所及び郡上市では、従来の林道に比べて開設コストが低く、早期に完成が可能な林業専用道の新規計画に向けた取り組みを行っていますので紹介します。

新規路線計画の取組み

平成27年度に、森林組合や自治会から新規路線の要望を募ったところ、計百三十路線もの要望がありました。こ



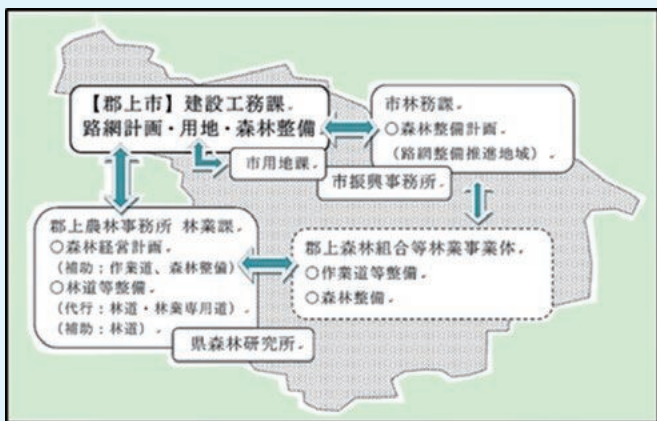
那留～六ノ里線 全体図

のため、県及び市の林道担当、森林整備担当で組織する「検討会議」を立ち上げ、採択要件の適否、開設効果、木材生産性の観点から、郡上市白鳥町地

内に位置する林業専用道「那留～六ノ里線」の事業化に向けて進めることを決定しました。

その後、事業採択された那留～六ノ里線は、利用区域内の森林面積388ha、蓄積110,031m³の林業専用道として、幅員3.6m、計画延長7,840m、全体事業費6億9,350万円、事業期間10年で事業を進めています。大型製材工場まで3.4kmと至近で、平成30年度から令和4年度末までの進捗率は55%に達し、効果の早期発現が期待されています。

平成29年度からは、「郡上地域林業



路網会議 関係図



路網会議の様子

路網整備推進会議」(以下、路網会議)と改め、主に地元からの要望路線等の情報を共有し、新規路線の検討を年に数回行っています。路網会議には、現場の意見を反映するために、郡上森林組合にも参加してもらいます。

3年度以降の路網会議では要望の経緯、地形、森林資源量等の条件を比較検討し、郡上市大和町地内に位置する林業専用道「小間見～栗巣線」を次の候補として選定しました。

小間見～栗巣線は、利用区域内の森林面積が228ha、蓄積が61,209m³あり、幅員3.6m、計画延長4,500m、全体事業費8億1,955万円の林業専用道として、着手

を目指しています。

これまでに地権者との調整を進めながら線形を検討しつつ、利用区域内で森林経営計画を策定している森林組合と連携して、開設工事の進捗に合わせた作業計画を作成しました。

また、現在、別の新規路線についても検討しています。

他の管内での新規路線計画の取組み

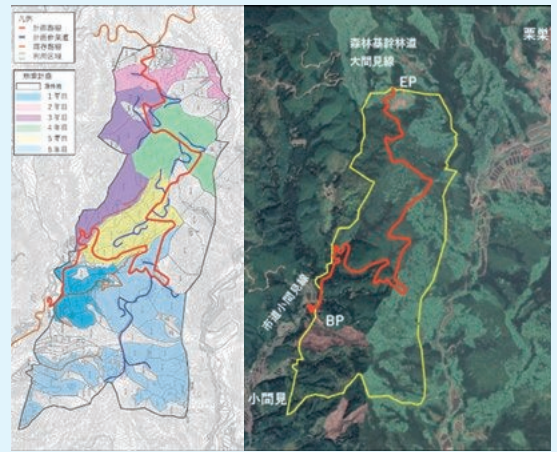
他の管内での取組みについて県内の9農林事務所へアンケートを実施しました。

その結果、事業化に向けた組織を設置しているのが2事務所で、関係市町村や森林組合、山林管理組合等で構成されているものの、事業化以降の活動がない或いは未定との回答でした。

また、組織化による利点を尋ねると、関係者の調整や意見交換の場、同意書取得への働きかけや要望の集約に有利との意見がありました。

会議を設置する効果と今後の取組み

以上を踏まえて、路網会議の特徴と会議を設置する効果を検証します。かねてからの課題である利用側(森



小間見〜栗巣線 森林整備、作業道計画図

林整備側)との連携不足、森林整備計画の実効性については、路線選定や線形決定の段階から場を共にすることで、情報共有や意思疎通を図ることができ、森林経営計画の策定や、森林整備が進めやすくなります。

また、組織の継続により、事業化した林業専用道の進捗や開設効果(森林施業の状況)がタイムリーに把握できるメリットがあり、今後も路網会議を継続していくことで、新たな候補路線の検討に反映していきたいと思えます。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-167-1111

郡上農林事務所まで

岐阜県木質バイオマス利用アドバイザーの認定について

岐阜県では、脱炭素社会の実現や持続可能な森林資源である木質バイオマスの利用を促進するため、温泉施設等へ薪や木材チップなどの木質資源を燃料とするボイラーの導入に対して支援しています。その中で、木質資源利用ボイラーの導入に関する相談や、事業者への適切な指導・助言ができる体制づくりを進めるため、木質バイオマス利用に関する専門的な知識や豊富な経験を有する人材を「岐阜県木質バイオマス利用アドバイザー」に認定する制度を新たに始めました。

令和5年度は、以下の3人を認定しました。県のホームページで、「岐阜県木質バイオマス利用アドバイザー」の名簿を公開していますので、関心のある方や支援を受けたい方は、ぜひご相談ください。

認定番号	氏名	事務所名
第001号	川越 裕之	合同会社 CN リサーチ
第002号	谷淵 庸次	飛騨高山グリーンヒート合同会社
第003号	森 大顕	株式会社森の仲間たち



川越 裕之氏



谷淵 庸次氏



森 大顕氏



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

立秋も過ぎた夏の日、飛騨市に向かう車窓から農家の庭先に咲くミソハギとオミナエシをみつめました。

ミソハギと言えば「盆花」として有名ですが、岩手県岩手郡ではキキョウ、仙台ではオミナエシやキキョウ、ワレモコウ、神奈川県相模原市（旧津久井郡）ではナデシコ類、岐阜県加茂郡ではヤマユリやオミナエシ、愛知県丹羽郡ではミソハギやホオズキ、奈良県吉野郡ではオミナエシが

「盆花」とされます。

オミナエシ (*Patrinia scabiosifolia*) は「秋の七草」の一つで、黄色の粟粒が集めたような集散花序をつけるため、「粟花、蒸し粟、黄金花（こがねばな）」などとも呼ばれます。

日当たりの良い草地を好み、昔は土手などに多く見られましたが、現在は自生地が減少しています。草丈60〜100cm程度になる多年生植物ですが、初夏までは根出葉を伸ばすだけで、花茎はその後一気に伸長します。

花のイメージに反して全草から独特の香りを放ち、特に「敗醬根（はいしょうこん）」と呼ばれる根は腐った醤油の臭いに例えられ、漢方では解熱や消炎、浄血、排膿に用います。

和名の由来は諸説あり、オミナが「美しい女」、エシが古語の「へし（圧）」を意味し、美女を圧倒する美しさからとか言われます。

また糯（もち）米を炊く強飯

を「男飯」と呼び、粟を炊いた粟飯を「女飯（おんなめし）」と呼んで、粟飯に似た花だからオミナエシとなったとか。オミナエシよりも日陰に強くて全体に毛が多く、花が白いオトコエシ（男郎花）に対比して、弱々しいオミナエシ（女郎花）とも言われています。

迎え盆の13日より前に山から花を採ってきて、盆棚や墓地に供えることを「盆花採り」とか「盆花迎え」と呼び、山から持ってきた花は精霊や先祖の依り代になるのです。

お盆には「ご先祖様が山から帰ってくる」と言われますが、「お盆」はインドのサンスクリット語「*puṣkara*」を音写した盂蘭盆会（うらぼんえ）の略だそうで、「お盆」などと略されるようになったのは、器の「盆」にお供物などを盛って先祖の霊をもてなすことからとされます。

また本来、器の「盆」は平たい形状のものを意味する言葉で

したが、次第に鉢や食器などを指すことが多くなり、盆栽や盆地という言葉の所以となっています。

盆の習慣は江戸時代に入ると民間の行事として盛んになり「盆礼」と言って親族や知人の家を手土産を持って訪ねる習慣となり、その盆礼は中元と呼ばれていたため、今日の「お中元」につながるとも言われます。

さてみなさんは、オミナエシの花を見て何を思い浮かべますか。



▲黄色いオミナエシと白いオトコエシ



山のおじゃまむし



—土になった、イタチ—【第385回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

80歳。ついに私もこの年を迎えた。昆虫との戯れは卒業し、今は虫以外の生き物に目が向いてしまう。これが楽しい。知らなかったことが次々出てくるからだ。今回は最近目にした話をしよう。まず、ツバメ。我が家にツバメが巣を作ったのは平成19年だから16年前。新築3年後の新しい家だ。そこにツバメが巣を作り始めたのだから家族は大喜び。しかも巣は玄関前の壁の内側。外からは見る事ができない。ここだったら外敵に見つからないだろうと思った。毎日家族で観察した。巣の前で見ている親鳥は餌を運ぶ。まるで家族の一員。そんな気がしたものだ。ところが新築10数年後に外構工事をを行い、壁を塗り替えてしまった。この影響なのだろうか、ツバメが来なくなってしまった。さびしかった。それが数年前、ツバメが帰ってきて巣作りを始めた。嬉しかった。しかし、巣の場所が前とは違うのである。今までのツバメの子孫ではない。そんなことを思いながら、この子育てを見ていた。今の私は年金生活者。時間はたっぷりあるので、今年はじっくり観察した。朝、昼、夕方、3回見ることもあった。この心変わり。これが80歳なのだと思えてきた。ヒナは4羽いた。親が来るとヒナは大きな口をあけて餌をねだる。餌は数羽で交互に運ぶが、夜は1羽だけが巣で泊まる。この繰り返し。それが6月1日、ツバメがいなくなった。巣立ちをしたようだ。しかし、巣の近くでは5、6羽のツバメが飛んでいる。ひょっとしたらこのツバメはこの巣で2回目の子育てをするのではないかと思った。というのは以前7月に卵を産んだことがあるからである。まだ、1か月以上ある。楽しみだ。

× × × ×

次はスズメとカラスの話。我が家の庭にはスズメがよく集まる。餌を探しているのだろう。ある日孫のYちゃんが菓子の破片を与えた。すると何羽も集まってきた。これに興味をわきいろいろなものを与えて観察した。ある日「おじいちゃん、スズメは何でも食べるけど、何が一番好きだと思う」と聞いてきた。私はわからなかった。「トウモロコシだよ。喧嘩して取り合っているよ。」思いもしないこの事実。知らないことが沢山あると思った。そのうちにハトも来始めた。Yちゃんは「ハトは嫌い」と言って餌やりは止めてしまった。これを聞いた私は散歩コースで同じことを始めた。公園でパンの切れ端を与えた。すぐにカラスが集まってきた。しかし、近づくと逃げていく。そのうちに1羽だけが逃げないようになった。私を見ると近づいて来るのである。餌を与える。喜んで食べる。そのうちに何羽もカラスが集まる。こんな日が続いた。ある日、いつものように餌を与えていたら、大きな怒鳴り声。「カラスに困っているのだ。餌を拾ってすぐに帰れ。」かなり憤慨して見えた。同じ鳥でも

ツバメやスズメは喜ばれるのにカラスは嫌われる。複雑な気持ちになった。

× × × ×

次はイタチ。今でもあの姿が目につく。ある日帰宅途中に自宅近くの道路で人が集まっていた。動物が死んでいたのである。顔から血が出ていたので、車にひかれたらしい。イタチだった。私は孫に見せるため尻尾をつかんで車にいた。すると見ていた人が「気味が悪い」、「野蛮な人」などと口にしてた。中には「美味しいですか。私も食べたいです」などと言う人もいた。孫たちは初めて見る動物なので興味津々。そのうちに素手で持つようになった。女房は旅行中だったのでこのことを知らせた。すると、私も見たいから捨てないでとのこと。二日後に帰ってきた。麻袋から取り出すと臭いという異様な臭い。「気持ちが悪い。見たから早く処分して」と女房。近くの山へ捨てに行った。というより、このイタチがどのようになるのかを調べたかったからである。翌日、ものすごいハエ。それにいろいろな昆虫が集まっていた。それが10日後には骨だけになり、数日後にはこの骨もすっかりなくなっていた。しかし、この場所に小さなチョウが何匹も飛来して静止していた。こんな光景を見るのは初めてである。イタチの姿は消えても臭いは残っているのかと思った。同時に、野山には動物がたくさんいる。大きな熊や鹿でも死亡するとこのイタチのように消えていく。だからきれいな野山なのだ。自然界の奥深さを感じた。



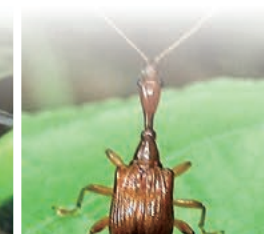
死後直後



死後15日後

× × × ×

私はこの原稿を40年以上書いているが、今回ほど精神的に追い詰められ悩んだのは初めてであった。その状況というか無念さを聞いていただきたい。実は原稿をほぼ書き上げたとき雷が落ち、コンピューターが故障。原稿が消失してしまったのである。ショックだった。原稿を書き直さなければならない。しかし、そんな気が起きないのである。事情を話して原稿提出日を延ばしてもらい、書き始めた。ところが書いた内容はわかっているのだが、どのような文章だったか思い出せないのである。苦労して苦労して書いた。これが80歳の脳みそか何回も思った。ようやく完成。「できた!」。嬉しかった。ほっとしたというか、気が楽になった。この時の気持ち。忘れることはないであろう。



『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

野生鳥獣個体数管理事業 ～ニホンジカによる農林業等への被害軽減のために～

野生鳥獣個体数管理事業では、ニホンジカの個体数の増加を防ぎ、農林業や生活環境、生態系等に対する被害を軽減するため、市町村等によるニホンジカの捕獲やその体制づくり、従事者の育成を支援するとともに、捕獲技術向上のための研修会等を実施しています。

市町村等への取組み支援

○ニホンジカの捕獲事業

第二種特定鳥獣管理計画に基づき市町村が実施する捕獲(ニホンジカの個体数調整捕獲)を支援しています。

○地域における捕獲体制づくり

地域住民が主体となって行う、わな捕獲を中心とした集落ぐるみによる捕獲体制の整備を支援しています。

○捕獲従事者の育成

狩猟(第一種猟銃)免許を持ち、各地域で被害防止捕獲を行う人材を確保するため、市町村職員等の育成を支援しています。



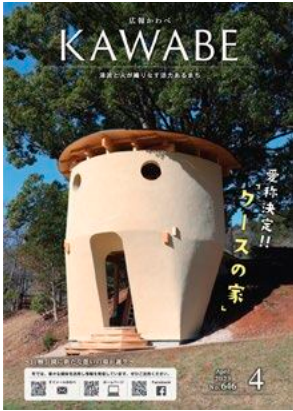
岐阜県の取組み

○わなによる捕獲技術の向上に係る研修会

くくりわなによる効果的な捕獲技法の普及を目的に研修会を開催します(例年9・12月)。

【研修会の様子(座学・実技)】





「広報かわべ」の表紙を飾る

岐阜県加茂郡川辺町で今年の4月8日、山楠公園リニューアル式典が開催され「クースの家」がお披露目となった。この建物は川上・川中・川下の見事な連携による地域材活用の好例と同時に、「良いものを目指す」という意識を中心とした地域循環の一例となったので紹介したい。

「クースの家」は川辺町基盤整備課と可茂森林組合が企画したオール川辺町産材による公園の木製デッキ建設計画である。元は森林環境譲与税による山主の意向調査からスタートした計画で「町にお任せする」という意向を得て可茂森林組合が整備を実施した。木を伐るだけでなく町内の公園で使うことで



曲面壁の下地は根気のいる大工仕事

森林整備サイクルを町民にも理解してもらおう機会にしたいというものだった。アカデミーからは建築専攻の田村聡さんが設計協力として携わった。下職も地域の職人で、材も技術も地産地消の体制で構成されている。

川上・川中・川下の連携を向上することが木材の流通促進、森林保全の好循環を生み出すことは知られているが、今回は将来のメンテナンスも地域で行えることで中長期的にも地域経済循環が継

良いものを目指すことで森林の好循環を

岐阜県立森林文化アカデミー 准教授 ● 松井 匠

続している。また移送時のCO₂排出量削減にも寄与していることから、持続可能な木材利用の基本的なルールを全て備えた取り組みだった。

アカデミーは「良いもの」を設計協力することを期待され、応える形で提案した。

川辺町は「こんなに良いものができるなら追加予算はなんとか確保したい」と増額に対応し、可茂森林組合は「川上側からも、良いものをつくることでまちづくりに貢献したい」と確認申請費用や受託研究による学生のバイト代を捻出、県森連は「意義のある連携や活動だと感じたので手間がかかってもいい」と各種変更手続きを了承し、東濃ひのき製品流通協同組合の鈴木氏は「どうせつくるなら良いものにした」と困難で手間のかかる曲面壁を見事な大工技術で納めた。

今回の好循環の要因は、
1、可茂森林組合が大きいビジョンでまちづくりに貢献しようとし



オール川辺町産材の木組が見えるシンボルデッキ



設計協力担当は
森林文化アカデミー学生の田村聡さん

2、関係者がお互いの仕事を信頼し合っていること。
3、アカデミーが「良いもの」を提示できたこと。

以上が、重要だったと言える。好循環を別の地域でも実現するため参考にされたい。

ており、通常の業務範囲を超えたハブ的な動きをしていること。同様に大工の鈴木氏が大工作業だけでなくアカデミー側や製材、乾燥、下職と綿密に情報共有を行い、関係者が良い建物にしようとして動いていたこと。



ぎふ木遊館通信



ぎふ木遊館のギャラリーでは、県内各地の「ぎふ木育」の取り組みや、その背景となる自然・産業等を紹介するギャラリー企画展を開催しています。6月17日（土）から7月14日（金）にかけて中津川市の協力により「中津川市の森林文化と木工展」を開催しました。

中津川市は「中津川市森の担い手育成構想」を掲げており、子どもの成長に合わせた木製品を贈呈し、ふるさとの木製品に触れる機会を作っています。また、自然体験学習や木工体験等、木育に取り組むことでふるさとの森林文化を後世に伝える取り組みを進めています。

展示してある木製品を見た来館者は、どれも高品質でこの製品を使っている中津川市の子どもたちが羨ましいと話されていました。

その他にも伝統的伐採技法「三ツ緒伐り（みつおぎり）」についての展示や映像も放映され、子どもだけではなく大人も見入っていました。



伝統的伐採技法等の紹介



贈呈される木製品

市内木作家の作品



今回の企画展の開催中に、中津川市から講師をお招きして、下記の木育プログラムを開催しました。

6月18日（日）

『お箸づくり ~父の日にありがとうを込めて~』

講師：加子母森林組合 伊藤忠さん

お父さんに日ごろの感謝を込めて子どもたちが夢中になってお箸を作製していました。

参加者は、後日プロが仕上げたお箸が自宅に届くのが今から楽しみですと話されていました。



お箸作りを楽しむ参加者



皆さん素敵なお箸ができました！

6月25日（日）

『ぎふの木「イチイ」で鼻笛を作ろう！奏でよう♪』

講師：栗くり工房 栗谷本征二さん

形や木目に違いのある鼻笛の中から好きなものを選び、紙やすりで削りました。木工室にはイチイの木の良い香りが広がり、オイルで仕上げて完成した鼻笛をさっそく奏でて音色を楽しんでいました。



鼻笛作りを楽しむ参加者



自分だけの鼻笛ができました♪



やがてみんなの森になる

morinos

プログラム紹介!!

岐阜県立森林文化アカデミー・森林総合教育センター（愛称morinos）で実施しているプログラムについてご紹介します！

<morinosわくわくDay「丸太で遊ぼう」を開催しました>

morinosでは、森に親しむ入口となる様々なプログラムを開催しています。今回ご紹介するのはmorinosで月に1回程度開催されている「わくわくDAY」。ひろばでの自由な遊びにテーマを加えてみんながわくわくすることをしちゃう1日です。

昨年度も「どろんこまつり」、「木の実や泥だんごでコロコロを極めちゃおう！」など様々なテーマで開催しており、毎回多くの方が参加してくれています。今年度最初のテーマは「丸太」。今回は116人の方が参加してくださいました。

丸太や輪切りを使い、道を作って渡る、夢中になって輪切りを叩き割る、細い丸太を積み上げる…などなど、みなさん丸太を使って思い思いに楽しんでいました。



【落ちずに渡れるかな?】



【とび石ならぬとび木(?)】



【丸太の上をころころ】



【汗をぬぐう姿は職人のよう】



【お母さんは高さに挑戦】



【二人びきのこぎりに挑戦】

普段は時間の決まっている週末ミニプログラムですが、今回は特別に常時開催。内容は、テーマに合わせて「森のジグソーパズルづくり」でした。こちらも大盛況で、家族で力を合わせて大きなのこぎりを引いていました。

もちろん、テーマに沿った遊び以外にも、水遊びや泥遊び、トントンカチカチといった、いつも通りの遊びも盛り上がっていました。

テーマはひとつでも遊び方は無限大。そして、素材さえあればいろいろな遊びをつくりだすことができる。そんな「遊びの力」を強く感じる1日でした。

「わくわくDay」は月に1回程度開催しています。テーマは告知されるまでお楽しみ。普段はなかなか訪れることのない方も、この機会に遠足気分であらわれてみてはいかがでしょうか。

morinos HPでは、こうしたプログラムから日常風景まで、様々な活動報告を行っています。興味を持ってくださった方は、morinosのHP、動画YouTubeをご覧ください。

ホームページ <https://morinos.net>

開館時間 10:00~16:00

YouTube 検索「morinosチャンネル」

定休日 毎週火・水曜日



morinosHP



YouTube
「morinosチャンネル」



揖斐管内における鳥獣害防止施設の 設置後の状況について



■揖斐農林事務所 林業課
林業普及指導員 立澤 良子

近年の主伐・再造林が推進されて以降、揖斐管内では平成二十九年度の揖斐川町有林をはじめとして各地で主伐再造林が行われています。

今回は、再造林の際に設置した鳥獣害防止施設の設置後の状況について紹介します。

揖斐管内では、再造林に 鳥獣害防止対策が欠かせない

近年、ニホンジカ(以下、シカ)の生息数の増加により、農林業被害や森林生態系への影響の増大が懸念されているところですが、岐阜県の中でも西濃地域はシカの生息密度が特に高いとされています。

また、平成二十八年の森林法改正において伐採後の適切な再造林と造林木の着実な成長を図る観点から対策を行うべき区域(鳥獣害防止森林区域)を明確にした上で当該区域において重点的に鳥獣害対策を行えるよう森林計画制度が見直されました。

森林経営計画において鳥獣害防止森林区域内の森林で人工植栽を計画する場合は、被害防止対策が必須となります。

これらのことから、揖斐管内で再造林を行う際には、鳥獣害防止対策が必要となります。

揖斐管内で行われている 鳥獣害防止対策

シカの生息密度が高い場合、鳥獣害防止に忌避剤を使用しても被害が防げないとされているため、揖斐管内(県の補

助事業を受けているもの)では、幼齢木保護具の設置(単木保護)が行われています。また、防護柵の設置は行われていません。

幼齢木保護具の設置にしている主な理由は、防護柵内にシカが侵入した場合の被害が大きいため、植栽後の下刈りの際の誤伐を防ぐ効果が期待できるためです。

幼齢木保護具は「くわんたい」と「チューベックス」を使用しています。

「くわんたい」はネットタイプの保護具で、袋状の保護カバーを植栽木に被せ土中に埋め込んだガラス繊維強化プラスチック製の専用ポールに固定するものです。

「チューベックス」は、チューブタイプの保護具で、筒状の保護カバーを植栽木に被せ、支柱に固定するものです。チューベックスを使用したところは、降雪があるところでしたので、支柱は耐雪仕様の4cmの径の木材を使用しました。

幼齢木保護具(単木保護) 設置後の状況

「くわんたい」の状況

平成二十九年度に揖斐川町有林でスギが植栽され、植栽木保護材はくわんたいが使用されました。

植栽後五年ほど経ち樹高は2mを超えるものも多く、成長は順調であると言えます。

しかし、植栽木がシカの食害の恐れがない高さに成長したため、くわんたいの一部外したものについては、剥皮

されているものがありました。

幼齢木保護具を取り外す時期については、剥皮防除の面からできるだけ残しておいて、支柱が巻き込む前には外すというのがよいように思われました。

また、ほとんどはまっすぐ成長していましたが、くわんたいの中で捻転したまま成長したものもありました。

ヒノキについては、当管内での事例が少ないため今回紹介しませんが、頂端がスギより柔らかいため、より捻転する可能性が高いと思われます。



くわんたいの中で捻転した植栽木



剥皮されている植栽木

くわんたいは、広葉樹の植栽地でも使用され、概ね順調に育っているようでした。くわんたいの中に植栽木以外の植物が入り込んでおり、植栽木より大きくなっているものも見られましたが、植栽木が枯死するほど被圧されてはいませんでした。

しかし、今後の競合で植栽木が負けないように入り込んだ植物の除去等の検討も必要と思われます。



くわんたいの上からカラスザンショウとコナラが出ている状況

「チューベックス」の状況

令和元年から三年度にかけて県有林で再造林を行った際には、スギが植栽され、ここではチューベックスが使用されました。

チューベックスを施行した植栽木については、主軸がチューベックスから抜け出て、横に伸びた枝葉が食害にあっているものはありましたが、主軸が食害にあっているものはなかったため、枯死の心配はなさそうでした。

しかし、植栽したすぐ横に切り株があったものについては、主軸が食害を受けていました。シカが切り株に前足



植栽木に切り株が隣接している状況

を乗せることで容易に食べることができたようです。

植栽の際には周りの状況にも注意が必要ですが。

令和二年十二月の大雪の際の雪害状況とその対応については、本誌令和三年八月号で紹介したところですが、積雪により倒伏したものの修復には多大な労力を要しました。

今後について

植栽樹種、植栽場所によってどの保護資材を使用するか十分検討することが必要であると思われます。

鳥獣害防止施設の設置は多くの費用がかかります。せっかく設置した施設が十分に機能を発揮できるように維持管理等が重要であると感じられました。

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0585-1231-1111

揖斐農林事務所

林業課

森林整備係まで

スマート林業通信 37

スターリンクとデジタルトランシーバによる

携帯圏外通信の実証

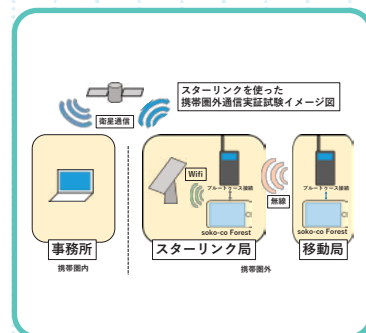
スマート林業を推進していく中で、通信環境の整備はとても大きな課題となっています。

森林文化アカデミーでは、これまで「LPLA (Low Power Wide Area) 通信やデジタルトランシーバと soko-co Forest による通信など検証を行っているところですが、今回、スターリンクとデジタルトランシーバによる携帯圏外通信の実証試験を行いましたのでその内容をご報告します。

スターリンクとは、アメリカの会社が運営する衛星を使ったインターネットサービスのことで、数千機の低空衛星を使うため、これまで通信圏外であった地域でも、空が開けていけばインターネットが使えると期待されています。

今回の実証では、携帯圏外の森林を想定した「移動局」から「スターリンク局」へは、デジタルトランシーバと soko-co Forest を使った通信を行い、「スターリンク局」から事業体事務所を想定した「山小屋」へは、スターリンク衛星によるインターネット通信を行うことで三者間での情報通信を行うというものです。

トランシーバでのデータ通信は森林内でも1km以上離れても安定した



通信ができましたが、スターリンクについては、思っていたよりも通信環境が限られることが分かりました。枝葉の影響も受けることから、上空が広く開けている必要があり、現状では森林内の活用は限定的と感じました。

ただ、現在も衛星の打上げが行われていることから、今後、通信環境が良くなる可能性はあります。

森林内での携帯圏外通信は現在も様々な取組みが行われています。

これからも森林文化アカデミーでは実証を行い、皆様にお知らせしていきたいと考えています。

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-1351-2535

森林文化アカデミー

スマート林業推進係まで

岐阜県立岐阜農林高等学校図書室

岐阜県本巣郡北方町北方150番地



図書室全景

施設の概要

事業年度	令和4年度
事業主体	岐阜県
構造 延床面積	鉄筋コンクリート造 174.6㎡
施設用途	学校図書室
木材使用量 使用樹種	13.49㎡ ヒノキ他(県産材100%)
全体事業費	21,906千円(県有施設木質化等推進事業)
助成額	—
設計者	株式会社山田建築事務所
施工業者	フルハウス株式会社
工期	令和4年8月2日～令和5年2月28日

施設の経緯

昭和45年3月に建てられた校舎内に図書室があり、全体に古びて暗い雰囲気であったことと、書架が現在の規格に合わないため使いにくくなっていました。また、閲覧室と職員の部屋が分かれておらず、アクリル板で仕切っている状態でした。

今回の工事では天井・壁面・床を木調にし、部屋の出入り口を新調し、職員スペースに壁と引き戸を設け、今までスチールだった書架を木製で新設しました。ヒノキをふんだんに使用したことにより、とても居心地の良い空間になりました。



ここに注目!!

ヒノキ製のマガジンラック。下方のバックナンバー置場にゆとりがあり、一目で号数が見えるため、バックナンバーに手を伸ばす利用者が増えました。

利用者の様子

森林科学科の教員が、使用されている木材をじっくり観察する様子が見られました。生徒は「木の良い匂いがする」と喜んでます。従来からある森林科学科製作のベンチとも調和しています。



■問い合わせ先
岐阜県立岐阜農林高等学校
TEL 058-324-1145

母樹に優しいクローン増殖

— 中将姫誓願ザクラの後継樹育成 —

森林研究所 ● 茂木 靖和



図1 材料採取

組織培養は、さし木やつぎ木と同様、材料に用いた株（母樹）の性質を受け継ぐ苗を育成できるクローン増殖技術です。他の方法より小さい材料が利用できること、一度の材料採取で継続して苗木育成できることから、母樹に優しい技術といえます。当所ではこの特性を活かして、材料

が限られる天然記念物や絶滅危惧種の後継樹育成および造林樹種や特用林産物の優良個体の苗増殖に、組織培養を利用していきます。今回は、母樹に対して負荷となる材料採取に焦点をあてて、最近取り組んだ中将姫誓願ザクラの後継樹育成を紹介します。

1. 苗木育成のきっかけ

本種は、岐阜市の願成寺境内にある国指定の天然記念物で、花びらの数が25〜35枚と多い八重のヤマザクラです。本体の樹勢低下や平成3年

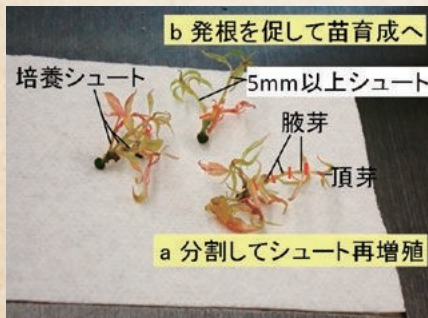


図2 培養シュート

2. 材料採取と再増殖

につぎ木で増殖した後継樹の減少から、地元保存会より新たなクローン苗増殖に対する要望が寄せられたことから後継樹育成に取り組みました。

母樹には、白鳥林木育種事業地（岐阜県郡上市白鳥町中津屋）に植えられた中将姫誓願ザクラの後継樹（図1a）を採用しました。その新梢（約10cm）を材料として採取し、葉の付け根にある腋芽を含む枝（図1b）を試験に使用しました。これを表面殺菌し、伸長した培養シュート（枝葉）を一つの芽を含むように分割（図2a）して、2〜4週間間隔で培養を繰り返すことでシュートの再増殖を行いました。さし木やつぎ木では、苗木育成の試験の度に母樹からの材料採取が必要ですが、組織培養では再増殖により十分なシュートを確保できるようなるため、一度の材料採種で苗



図3 鉢上げした苗

3. 苗木育成と植栽

育成の詳細な検討や効率化による大量増殖が可能になります。



図4 植栽後の苗

再増殖で得られた5mm以上の培養シュート（図2b）を5〜15mmに調整して、本誌791号（2019年8月）で紹介した高原山椒と同様の方法で苗木育成を行い、鉢上げしたポット苗を獲得しました（図3）。今春、その一部を当所の構内に植栽しました（図4）。今後、活着・成長・開花の検証を進めていきます。

当所の構内には、岐阜県ゆかりの淡墨ザクラ、揖斐二度ザクラなどの国指定天然記念物の後継樹をはじめ約30品種のザクラが植栽され、毎年3〜4月に開花します。その様子は当所ホームページの「さくらだより」で毎年紹介されています。今回植栽した中将姫誓願ザクラの後継樹が一年でも早くその仲間入りができるように見守っていきたいと思います。

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-331-2585

森林研究所まで

国有林ゴミゼロ運動 今年度も実施しました

岐阜県内の3つの森林管理署で、各署の職員に加え、地元自治体、名古屋林業土木協会、名古屋造林素材生産事業協会等の会員、関係ボランティア団体などにご参加いただき、今年度も「国有林ゴミゼロ運動」を実施しましたので報告します。

【岐阜森林管理署】
5月30日に岐阜市の金華山国有林のドライブウェイ周辺で清掃活動を実施しました。



金華山は、岐阜市の中央に位置し、山頂には岐阜城がそびえ、今なお自然が豊富に残り鳥獣保護区として保護されています。また、山頂まで遊歩道が整備され、手軽なハイキングコースとしても親しまれ、毎日多くの人々が訪れています。当日は総勢

68名が参加し、4グループに分かれて、全長約5kmの金華山ドライブウェイを歩きながら、道路沿いの空き缶やペットボトルなどを拾い集め、軽トラック1台分ほどのゴミを集めました。

今後とも国有林を訪れる人達が気持ちよく過ごせるよう、引き続き国有林の美化活動等に取り組んで行きたいと思えます。

【飛騨森林管理署】
5月30日に高山市清見町に所在する彦谷国有林及び隣接する県道90号線（別名：飛騨卯の花街道）、上小鳥国有林及び隣接する

国道158号線の2箇所においてクリーン活動（ゴミ拾い）を実施しました。当日は、総勢48名が参加し午前10時頃より1時間半ほどの作



業に汗を流しました。

彦谷国有林は北アルプスや白山が一望できることで有名な猪臥山へつながる登山ルートとなっており、多くの登山者が入林することに加え、



東海北陸道飛騨清見インターから飛騨市へ抜ける県道も通過しており、県道の待避所付近を中心に弁当の空きなど多くのゴミが目立ち、回収袋がすぐに一杯になってしまったと話す参加者もみえました。

今回初めて活動を行った上小鳥国有林に接する国道158号線では高山市街地から白川郷や郡上市へ至る主要道で交通量も多いことからポイ捨てなどによると思われるゴミが目立ちました。

回収したゴミは軽トラック1台分ほどあり、活動終了後に職員で分別して市内のリサイクルセンターに搬入、計測結果は60kgで昨年度の丁度2倍の量が回収された結果となりました。

路肩に車を停めて休憩したり、森林浴等を目的に山へ入る方も多いかと思います。後、後利用する方のごとも考え、ゴミは捨てない、持ち帰るという意識を持って利用していただければと思います。

【東濃森林管理署】

6月14日に国有林ゴミゼロ運動の一環で、中津川市にある付知峡沿線（走る）県道王滝加子母付知線（白川付知林道）において林道整備及びゴミ拾いを行いました。



当日は、この運動に賛同していた地元の中津川市をはじめこの付知峡にゆかりのある関係者、総勢50名でこの沿線の中でも特に多くの人が通る4・7km区間の整備を行いました。



幸いこの県道沿線は、利用者のマナーも良く、ゴミはほとんどありませんでしたが、春先から旺盛に伸び始めた雑草・灌木は例年にも増して大きくなっており、参加者は苦勞しながら作業を進めてくれました。

今年には新型コロナが5類の位置づけになったことから、より多くの方が「付知峡」を訪れ楽しんでいただければと思います。

（岐阜・飛騨・東濃森林管理署）

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
9月4日(月)~ 9月6日(水)	伐木等の業務 (チェーンソー)に係る 特別教育	<ul style="list-style-type: none"> ●講習時間：4日 学科 9:20~17:40 5日 学・実 8:50~12:00 6日 実技 8:30~17:40 ●申 込：開催日の10日前まで ●受講料：23,870円(本代含む)(振込み) ●定 員：50名(定員になり次第締め切ります。) 	4日(学科) 5日(学・実) 下呂交流会館(下呂市森 2270-3) 6日(実技) 南ひだ森林組合(下呂市乗政 25-1) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
9月7日(木)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	<ul style="list-style-type: none"> ●講習時間：学科 9:20~15:40 実技 15:50~16:50 ●申 込：開催日の10日前まで ●受講料：11,550円(本代含む)(振込み) ●定 員：50名(定員になり次第締め切ります。) 	下呂交流会館(下呂市森 2270-3) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
9月21日(木)	造林作業の指揮者等 安全衛生教育	<ul style="list-style-type: none"> ●講習時間：8:50~16:50 ●申 込：開催日の20日前まで ●受講料：11,200円(本代含む)(振込み) ●定 員：30名(定員になり次第締め切ります。) 	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



コラム

今年も私の地元郡上市では郡上踊りの季節が来ました。コロナ禍の3年間はほとんどの行事や催物が中止になり、郡上踊りも例外ではありませんでした。昨年度はマスクを着用し、入場制限による規模の縮小をして開催されましたが、今年は5月に新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことにより、やっと以前のような郡上踊りが開催されるそうです。お囃子に合わせた掛け声や、カランコロンと響く下駄の音など、踊り会場の熱気が直に感じられるかと思うとお盆の徹夜踊りが楽しみで仕方ありません。しかしながら、新型コロナに対する警戒はまだ必要です。感染対策を忘れずに4年ぶりの郡上踊りを楽しみたいと思います。是非、皆さんも会場に足を運んでみてください。

「森林のたより」編集委員 林政課 村土 秀巳

イベント情報

9月1日発行

連載

- 山の歳時記(217)
- 山のおじゃまむし(386)

地域の人

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(128)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(126)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他

9月号
予定

木材市場

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配	
第1827回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	14,500	—	↘	
		4 m	16~18cm	14,000	—	↘	
			20~22cm	14,500	—	↘	
			24~28cm	14,500	—	↘	
			30cm以上	12,700	17,500	↘	
	6 m	16~18cm	—	—	↘		
	7月11日	ひのき	3 m	16~18cm	20,500	—	↘
			20cm以上	18,800	—	↘	
		4 m	16~22cm	20,300	—	↘	
			24~28cm	19,000	—	↘	
30cm以上			18,700	38,600	↘		
6 m	16~18cm	—	—	↘			
第1413回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	14,400	—	↘	
		4 m	24~28cm	14,400	—	↘	
			30cm以上	13,000	—	↘	
	ひのき	3 m	16~18cm	20,500	—	↘	
		4 m	20~22cm	19,800	—	↘	
			24~28cm	19,000	—	↘	
			30cm以上	20,000	40,600	↘	
	6 m	16~20cm	26,000	—	↘		
		ひめこ	4 m	24~28cm	20,000	23,400	↘
			30cm以上	15,000	44,000	↘	
5 m	30cm以上	—	—	↘			
6月28日	くり	4 m	24cm以上	15,000	24,000	→	
第1748回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	14,500	—	→	
		4 m	24~28cm	14,500	—	↘	
			30cm以上元	15,000	22,000	→	
	ひのき	3 m	16~22cm	19,500	—	→	
			24~28cm	19,000	—	→	
			30cm以上元	25,000	36,000	↘	
		4 m	13cm以下	10,000	—	→	
			24~28cm	18,300	—	→	
	30cm以上元	25,000	41,000	→			
	7月6日	まつ	4 m	22~28cm梁	—	—	→
30cm以上元			11,000	—	→		

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

国産材は新築木造住宅の需要低迷を受け、製品、原木共に荷動きが鈍化、構造材の不振が特に顕著となり、引き合いは低調。スギ4m元木、尺上良材は応札はあるが、材の傷みを懸念し様子見にて弱含み。スギラミナ向け3m・4m材も弱含み。ヒノキ元木、尺上良材3m・4m役物取りも様子見にて弱含み。ヒノキ3m柱取、4m土台取りも弱含み。製紙向けバルブ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。(岐阜)

ヒノキは全体的に弱含み。スギ製材向けは若干弱含み。広葉樹良材は高値で推移しているが並材は横ばい。高値はヒメコ4m×42cm@44,400円、マクルミ2.2m×46cm@43,600円、サクラ2.1m×34cm@40,000円、ナラ2.2m×44cm@40,000円、クリ2m×40cm@38,000円、トチ4.2m×34cm@38,800円(飛騨)

ヒノキ元木良材3m・4m尺上、40cm以上役物は突発的な動きがあるが、当用買い傾向が強く弱含み。3m柱向け(14cm~24cm)、4m土台・中目は、依然荷動き重たく弱含みでの展開。スギ4m中目尺上元木良材も水上がり期の時期に入り様子見に終始。3m・4m構造材向けは市中製品価格軟化の影響を受け引き続き弱含みで推移。合板向けについては、製品荷動きが鈍く弱基調、特にヒノキ、カラマツは原木受入調整が一段と厳しく継続している。(東濃)

製品卸売標準価格 (6月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本枚)単価	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	80,000	(2,646)	→
	間柱	3000	105	30	1等	80,000	(756)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	60,000	(2,646)	→
	柱	3000	120	120	特等	80,000	(3,456)	→
6000		120	120	特等	165,000	(14,256)	→	
W ウ ッ ド 材	柱	3000	105	105	国産5層	91,000	(3,000)	↘
		3000	120	120	国産5層	98,000	(4,200)	↘

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (6月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	468	→
	コスト(目荒)	421	↘
米楸	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コストのみ大阪相場)

ざい A材

これってなあに? ~木材用語~

原木(丸太)を品質(主に曲がりなどの形状)や用途によって分類する際の総称。基本的に、A材(直材)は製材用、B材(小曲がり材)は集成材・合板・LVL用、C材(曲がり材)はチップや木質ボード用材。D材(枝、抜根など)は搬出されなかった林地残材などで、木質バイオマスエネルギーの燃料などとして利用することが期待されている。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典